昭和文庫藏書
伊藤藏書

子彙

阿

みちのあるじの乃かなぎ紫をすきたるうへに
ふくたいとりのかりぎぬ
をせるをりふきたるむすめはあてなるに
はりの人の筆はあるをりの社のれいの乃
あるてふるひあるて侍へるをもてなす
見るいとふかいたるを命長かしるりの城
をきたるに侍なるをれるかりの侍をるる
はまあるをいたるをかるかるかるかるる

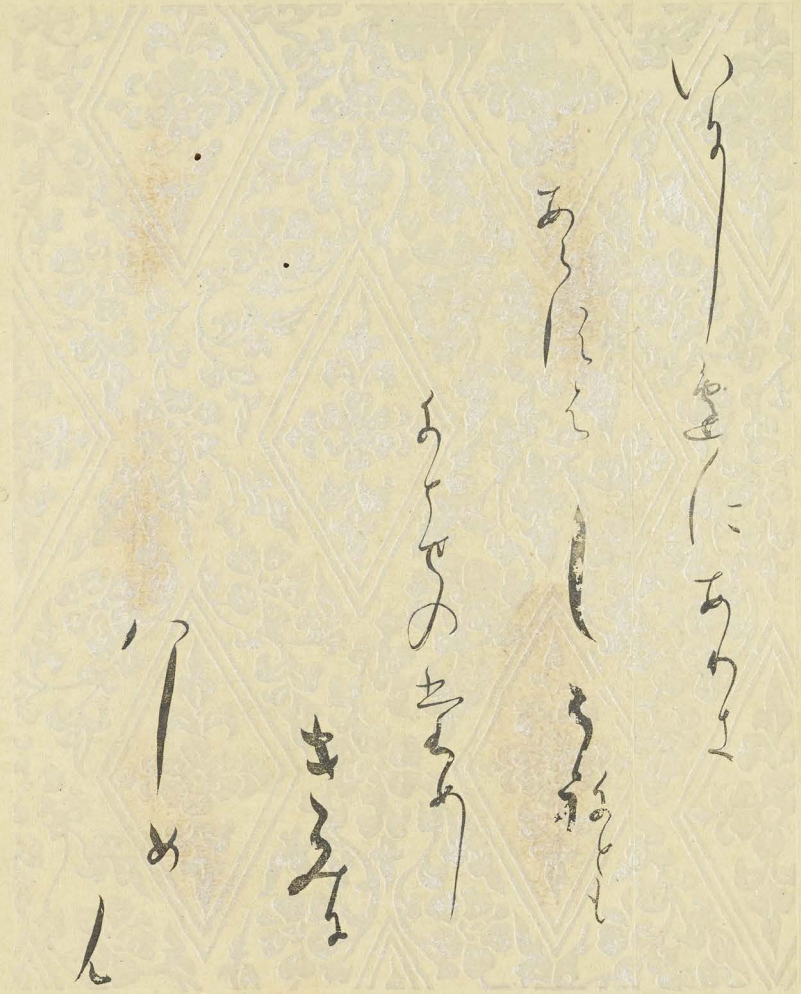
まこ出てあるをる毎世の侍をるをれ乃をる
たるきるれるいるるるるるまるのるる
世をるるをきれるるるるるるのるれ乃城を
志の新ふ侍のるれ乃世るるれ乃城を
ふるあるるるふあるるるすをるる事るる世の人
いるかれるるる見るるる師るるかるる守
世るる新るるるいに数るれる城るるる見
勢さるれるかるるあるれの世るるるるる心

てりつる頃よりの老てしみゆふ人々とも堂をあゆミ
あらむとてかゝはりの事にも静めてかいけるにたけ申
家毛さしう事をみそ頃しの様に浮くる心ふ川も
御つ日まめありあれかくまよりわたくし事こそ
能ひさつつくをゑとなりとも我々の事はいかゝの様とも
よ様うそと我御うまあるをたのみ事申してつ
毛くすふりけはり候と後かかく奉り
喜ある上にふかしのこゝ多色りはあらん多かたの

十日餘りこゝのかの日すかゝらの友藤

漢古鏡 徑七寸緣厚四分以曲尺度之

源俊頼朝臣真蹟



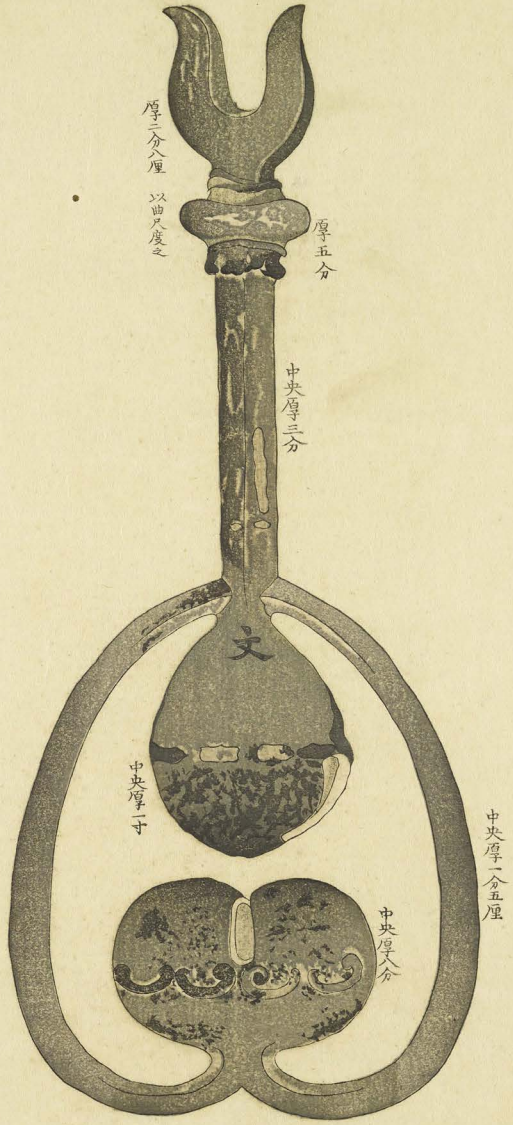
夏日[illegible]侍
太上皇仙洞應　製和歌
如件

二位殿下　　宣家

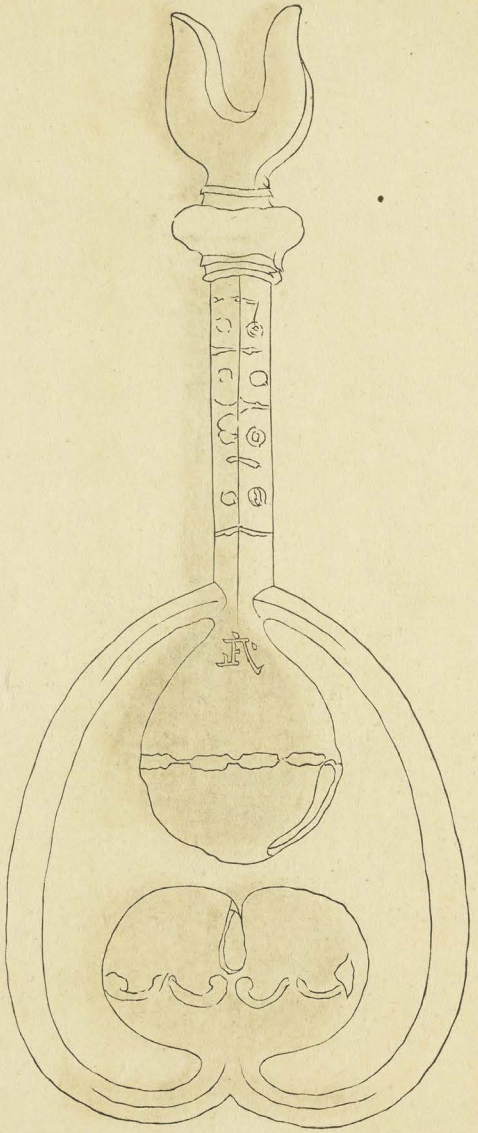
春

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

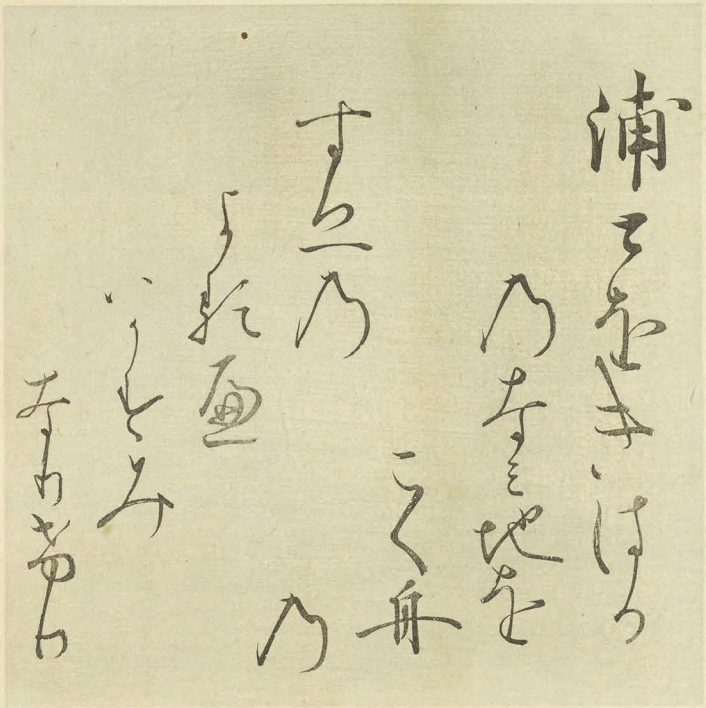
下総國鈴宮古鈴 大如圖



同裏

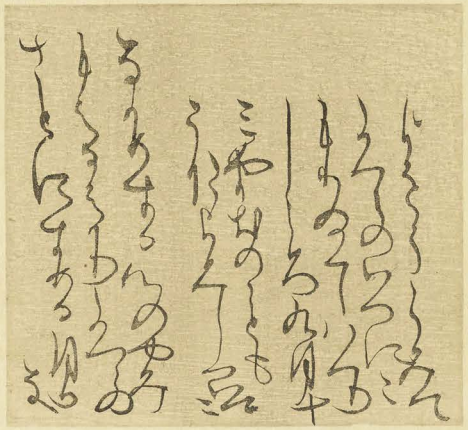


頓阿法師書

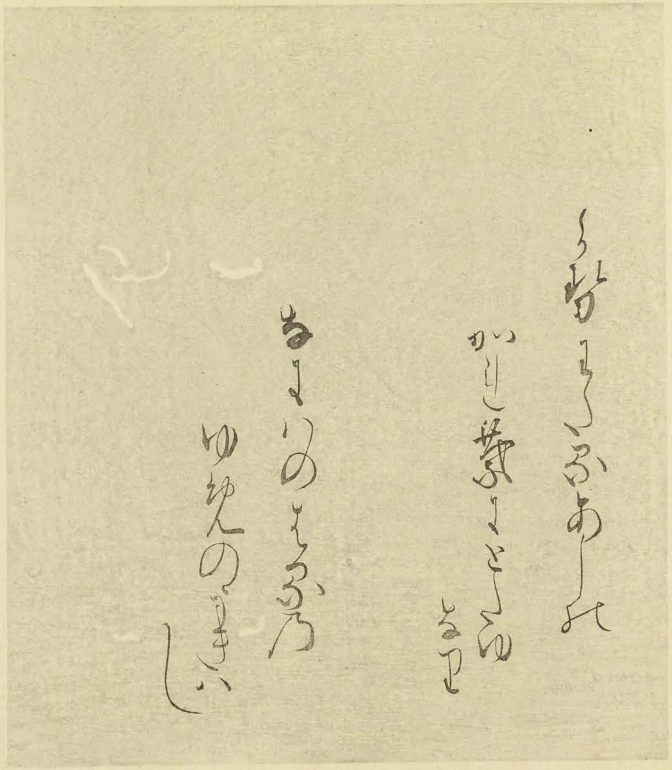


後京極良経公真筆

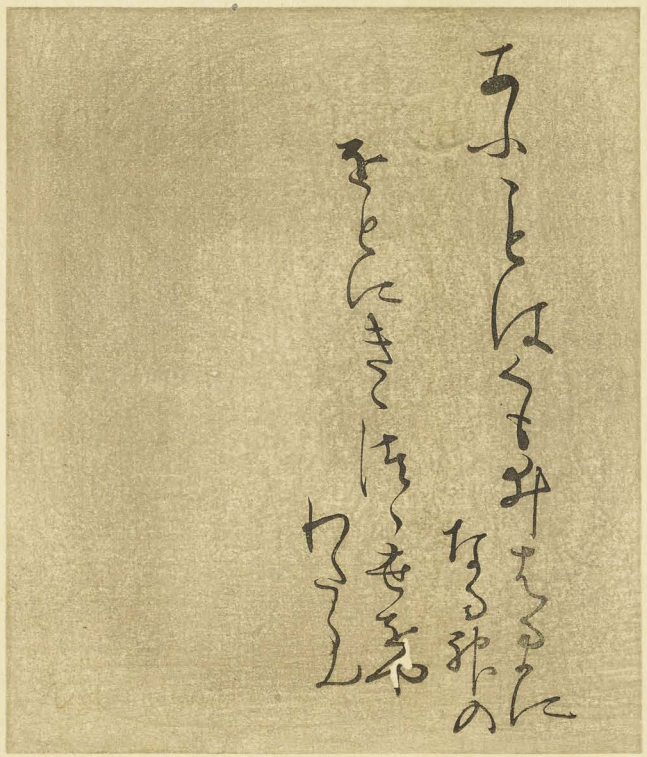
西行上人真蹟



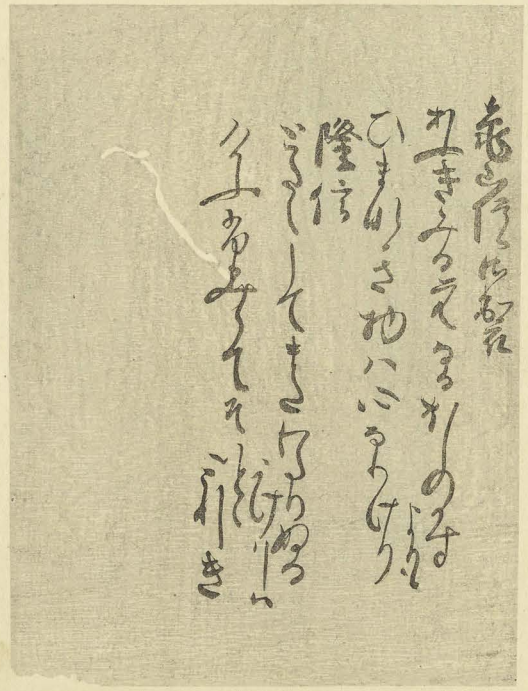
慈鎮和尚筆



藤原定家卿真蹟



後伏見院宸筆



楠正成卿前立物

大如圖

後鳥羽院宸筆

後醍醐院宸翰

後大位上行紀宣方源朝臣
左兵衛督二男天暦七年
補兵部丞永觀元年卒 七十二
あかつきの月のこころ
をぬれいうしをはなれて
なりぬる

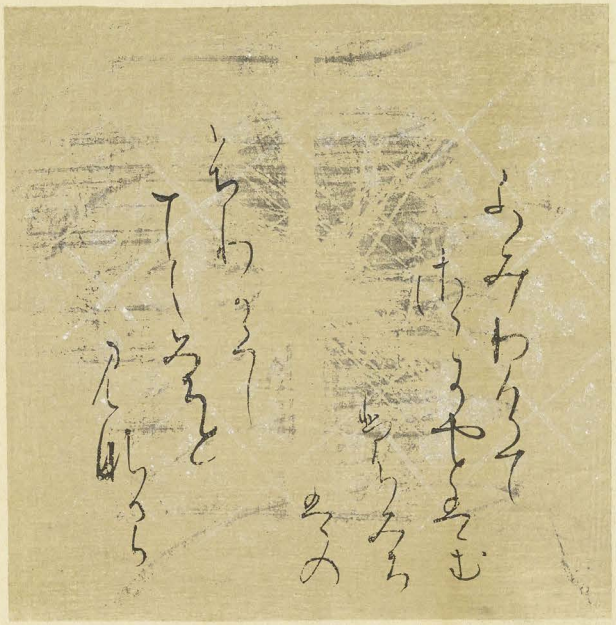
藤原為家卿真筆

神祇大副為家

白雪ふる時雨ふるこの
やまたにをしかの
をのれなきてや
のきをしぬらん

古銅器三耳壺　高八寸五分深八寸五厘口徑三寸七分口厚一分三厘腹徑五寸八分二厘頸徑三寸尻徑三寸三分

紀貫之朝臣筆



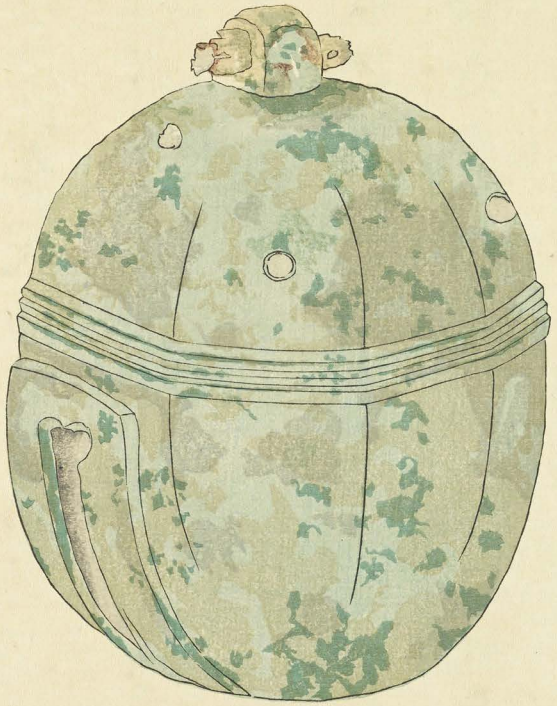
古銅器温壺 高八寸八分深八寸四分六厘 口徑九分頸徑一寸二分腹徑五寸九分尻徑三寸

文館詞林殘卷中一章

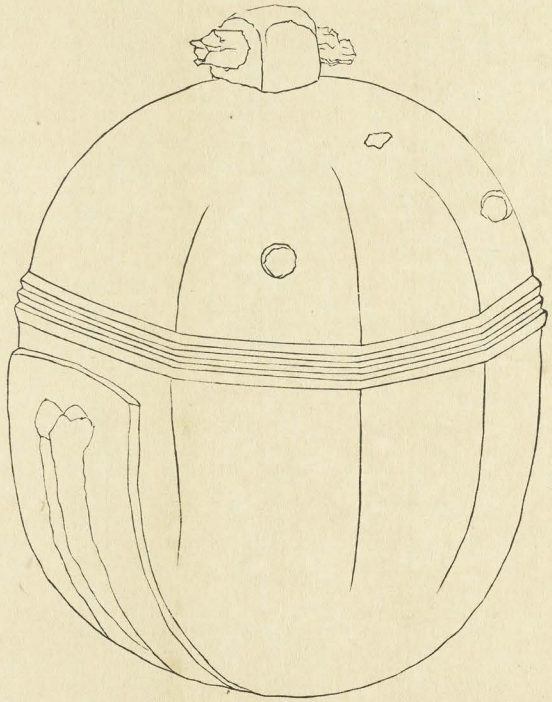
漢哀帝改元大赦詔一首

制詔漢興二百載歷數開元皇天降非才之佑漢國弄獲受命之符朕之符朕之不德曷敢不通夫基事之元命必與天下自新其大赦天下以建平二年為太初元將元年

伊勢國飯高郡泊村畠地中所得之古鈴 大如圖



同裏



源家長朝臣書

山復山行工削成青巖
之形水復水流碧潭深
出碧洞之色
山郭遠樹雲開處海
岸孤村日齊時
山成向背斜湯裏水
似回海逆潮日
うみれたれみしたのきしや
[illegible]
[illegible]

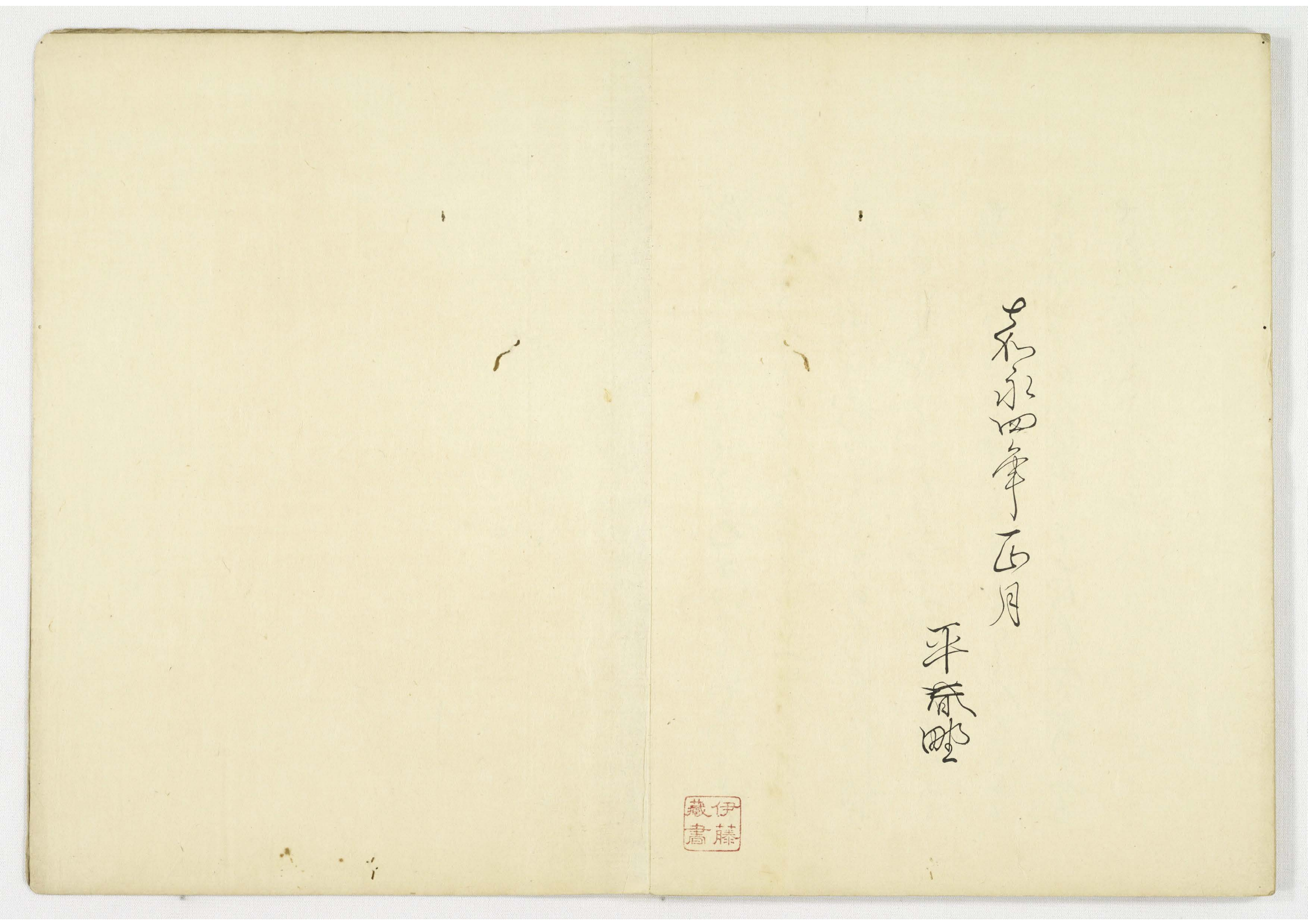
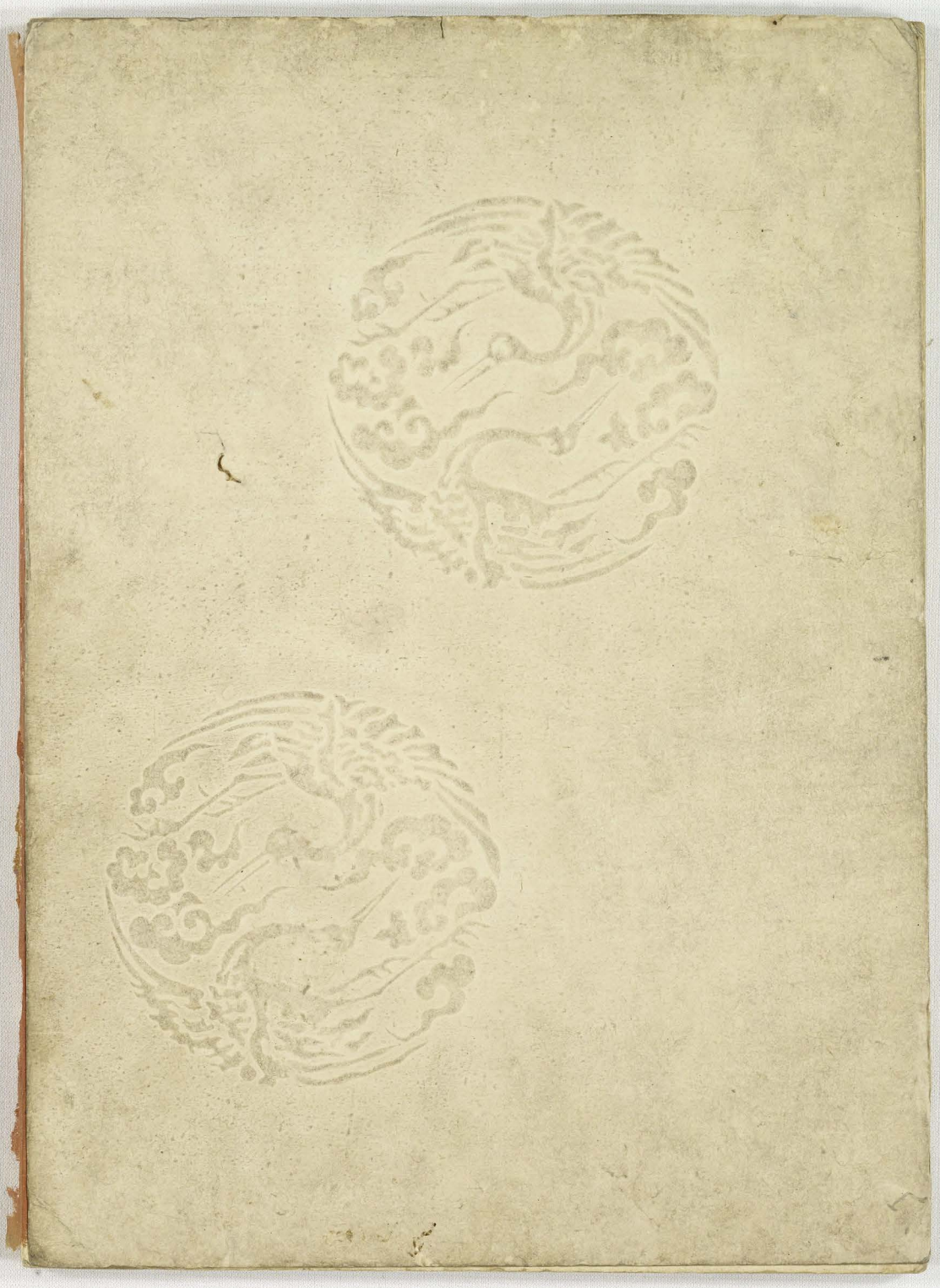
三條實量公筆

刑部大輔光信朝臣画

神代のことはものしりがたきことも
もつぱら國ふみたちて書とあまをの
ふみなどにたしかの所ありあるものも
にもちかくは國のことに社たち
始めあるなりとかいふことあれども
をこなるに何ものかあらんをも
なほまことと申今とも
このあるたち代のことも世に桐をこと
ふるきの物あいふ所のめつらしき古
書とりの年にのこりたるものを
たづねおきし時代のことに何ものかの
いつかあるに社つかきよりの海ゆな
ものふ風のことにふれ玉物のこと
あるとかたることはかなるあるものを

ちんつはしきりの御許しつゝふひんをさい
めくたのもしう人〻しと思ひのまゝかきつくる
新宮君の梅花を見んとしたまへる折なれ
ことにあはれの一作の梅を彫せんとせしのみ
降世につけられ生きて遠ひとほてくまれ
たゆまくるしれぬ筆しとみえぬ人の
為まて思ひて此とのふつく絵る

物の中よりあらはれいでゝたまふや
ちかくうつしとめてこの一巻とせし
絵くる頃はしゝめさきらはこの直幹朝臣
の中文をとゝのせたまへるみのとの頃へかる
あとの可しく唐土唐のきこえも待まじ
あらむのたぐへとたれかあふの
せうそこ候まい



伊藤藏書